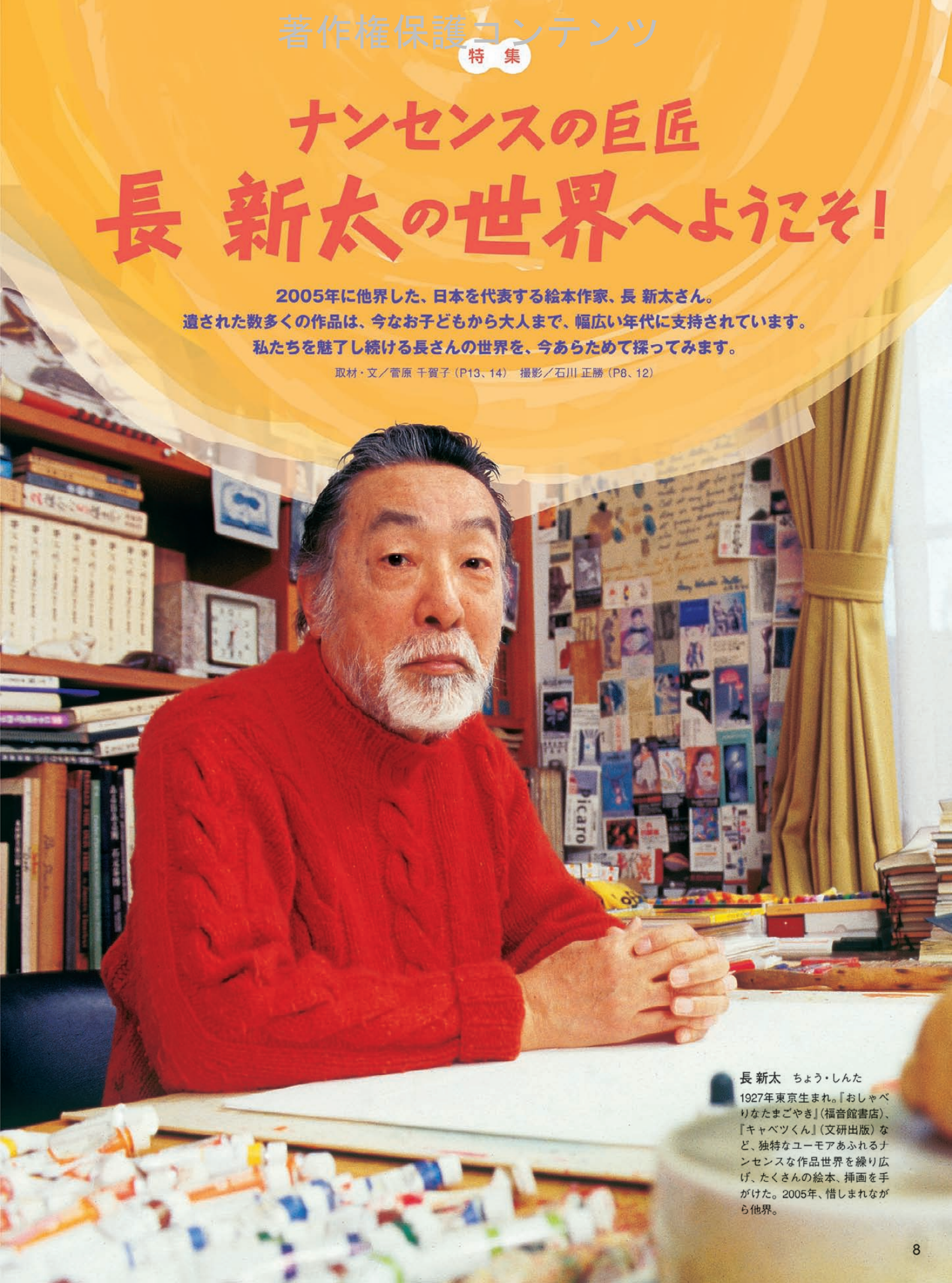
著作権保護コンテンツ

特集

ナンセンスの巨匠
長 新太の世界へようこそ！

2005年に他界した、日本を代表する絵本作家、長 新太さん。
遺された数多くの作品は、今なお子どもから大人まで、幅広い年代に支持されています。
私たちを魅了し続ける長さんの世界を、今あらためて探ってみます。

取材・文／菅原 千賀子（P13、14）　撮影／石川 正勝（P8、12）



長 新太　ちょう・しんた

1927年東京生まれ。『おしゃべりなたまごやき』（福音館書店）、『キャベツくん』（文研出版）など、独特なユーモアあふれるナンセンスな作品世界を繰り広げ、たくさんの絵本、挿画を手がけた。2005年、惜しまれながら他界。

著作権保護コンテンツ

読者が選んだ 長 新太さん この1冊

前号の読者アンケートで、読者のみなさんに「数ある長 新太さんの作品で、一番好きなものは？」とお聞きしたところ、たくさんのお答えをいただきました。その結果をランキングにして発表するとともに、熱い思いが込められたコメントもご紹介いたします！

第1位

『キャベツくん』
文・絵／長 新太
1,300円／大型絵本7,600円
（文研出版）

本誌6号では「空や大地のように、大きく生きていこう」と長さんからコメントが。あらぶるブタヤマさんと紳士的に答え続けるキャベツくん。ふたりのやりとりと背景に想像力がかきたてられる。第4回絵本にっぽん大賞受賞。

まいりました！のひと言。まさかこんな展開になるなんて、ページをめくりながら、えっ！と驚き、ぷっと吹き出す、その繰り返しがたまりません。（Tさん　60代）

大人には意味不明ですが、子どもは大好き。何度読みきかせたかわかりません。いまだに？？だらけですが、それが長 新太作品だと思っています。（Kさん　40代）

一番と言えば『キャベツくん』でしょうか。大人になって読んで、衝撃を受けた絵本のひとつです。色がバキッと強くて、落書きのようで……。意味わかんないけど楽しい！って思ったのでした。（Hさん　30代）

第2位

『ごろごろ にゃーん』
作・画／長 新太
800円（福音館書店）

飛行機は摩訶不思議な世界に突き進み飛んでいく。ごろごろ にゃーん、ごろごろ にゃーん、と。「われわれは、なにものにもとらわれない。ずんずん、すすむのだ」と、長さんからの力強いコメント。

長さんの作品はどれも大好きで選べませんが、どうしてもというならこの1冊！

はじめから終わりまでまったくのナンセンス！　ページをめくるごと、ごろごろ にゃーん、と続いていく世界は、まるで長さんの頭の中と会話しているかのようです。（Oさん　30代）

著作権保護コンテンツ

50号 記念企画

うっかり ヨミ子さん 著作権を学ぶ

絵本に著作権があることは知っているけれど、どんな場合に作者の許可が必要なのかがわからない。そんな声をよく耳にします。そこで、おはなし会に携わるみなさんの代表“ヨミ子さん”の物語を通して、著作権のことがリアルにわかる特集をお届けします。

イラスト／福井 若恵

第1話 ヨミ子さん、絵本をもとにペープサートを上演しようとする

ヨミ子さんは、地域の読書ボランティアグループのメンバーで、小学校や図書館で開かれる〝おはなし会〟で活躍しています。春休みに、図書館で定例のおはなし会があるので、はりきって準備を進めていました。

おはなし会の準備のための打ち合わせで、ヨミ子さんはおはなし会に変化をつけるためにペープサートを提案しました。ほかのメンバーも賛成してくれて、ペープサートの準備はヨミ子さんが担当することになりました。

ヨミ子さんが以前見たことのあるペープサートは、ペープサートの解説書の型紙からつくった紙人形を使ったものでした。子どもたちに人気のある絵本から紙人形をつくれば、もっと盛り上がるに違いない。工作には自信のあるヨミ子さんは、早速人気絵本のキャラクターそっくりの紙人形をつくりました。

リハーサルの日がやってきました。ヨミ子さんは自信満々で、メンバーの前でペープサートを披露しました。すると、メンバーのひとりで、いつも冷静な法子さんが、それは作者の了解を得ないとまずいのではないかと言いだしました。

「でも、私たちのおはなし会は入場無料でしょ。私たちだってボランティアでやっているのだし。誰も不当に儲けたり、作者に迷惑をかけたりしていないのに、了解を得る必要なんてないんじゃないかしら」と、ヨミ子さん。

メンバーの中では、はっきりしたことがわからないので、図書館の司書さんに確認することになりました。

ヨミ子さんの疑問に、司書さんが答えてくれました。

「結論からいうと、このペープサートを図書館のおはなし会で上演するには、作者の許諾を得る必要があります。著作権には、作者がそこから経済的な利益を受けるための『財産権』と、本人の意思に反して著作物を改変されたりしないための『著作者人格権』があります。ヨミ子さんの言うとおり、今度のおはなし会にはお金が介在しないので、『財産権』的には許諾の必要はありません。でも、絵本をもとにペープサートをつくって上演するのは、原本に改変を加えて利用することになるので、『著作者人格権』に抵触するため、著作者の許諾が必要になるのです」

「でも、私のつくったペープサートは、とてもきれいにできていて、決して作者の人格を傷つけるようなものではないんです。それとも、あんまりそっくりで、本物と間違えられちゃうのがまずいのかしら」と、ヨミ子さんは食い下がります。

「ペープサートの質は関係ありません。この絵本の作者は、この作品を〝絵本〟として読者に届けようとしたことは明らかですが、それ以外の方法で届けられることを望んでいるかどうかわからないのです。ですから、そのことを確認するために作者の許諾が必要になるのです」

「じゃあ、どうしたらいいの？　絵本の後ろを見ても、作者の連絡先なんか載っていなかったわ」

「出版物の使用許諾は、出版社を通して得ることができます。出版社が作者に連絡をとって、使用していいかどうか確認してくれます」

「なるほど、出版社に電話すればいいのね。でも、うまく説明できるかしら」

「そのために書式が用意されています。一般社団法人 日本書籍出版協会のWebサイトに、『お話会・読み聞かせ団体等による著作物の利用に

著作権保護コンテンツ

50号記念：創刊号から49号までのすべてのバックナンバーの編集部在庫をブックハウス神保町などで特別に販売します。くわしくはホームページへ（在庫がなくなりしだい終了）。

50号 記念企画

読みきかせと ともに歩んだ12年

「この本 読んで！」が50号を迎えました。これも、ご購読いただいている読者のみなさまをはじめ、絵本や読みきかせ活動にかかわる多くの方々のおかげと、心より感謝申し上げます。

ひと口に〝50号〟といいましても、1年に4号ずつですから、12年と半年もかかっての到達です。なんと、干支がひと回り！　30代前半の好青年だったぼくも、今では四捨五入すれば50歳の〝高青年〟……う～ん、12年前には思いもつかなかったおやじギャグ。今日も冴えてるぜ（，，）

この12年は、読みきかせのみならず、ブックスタートや絵本関連イベントなどが広く普及し、戦後の絵本・読書推進史の中でも、特筆すべき期間だったのではないでしょうか。

それらの真ん中にはいつも、〝絵本を楽しむ子どもと読んであげる大人〟がいました。多くの子どもは、親に絵本を読んでもらったり、仲よしのお友だちとおはなし会の時間を過ごすことが大好きです。多くの大人も、その時間に幸せを感じていることでしょう。

この間、取材を通じて、さまざまな絵本作家さんや作品、読みきかせ活動と出会い、それを弊誌編集部独自の切り口でみなさまに届けてきました。その切り口が最善だったかどうかは、謙虚に省みなければなりませんが、とにかく「21世紀初頭の絵本&読みきかせ」情報をみなさまと共有できたことは、JPICとしても大いなる喜びでした。ありがとうございます。グスン（おっと、お祝いなのにしんみりしてきちゃったぜ）。

そんなこんなでお届けしてきた50号を、駆け足で振り返ってみましょう。改めて、何かが見えたり、今後の展望が探れるかもしれません。

最後に、私たち編集部は、「この本 読んで！」が、これからも読みきかせを楽しむ方々のかたわらに、そっと寄り添っていられる情報誌でありたいと願っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

「この本 読んで！」編集人　なかいずみきよし

ぜーんぶプレゼント 新刊100!!

もう読んだ？

2013年9～11月に発売された新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。プレゼント応募はアンケート用紙、またはウェブから。

※出版社五十音順

マークは乳幼児から、

は中・高校生も楽しめる本です。

『おはなしトンネル』

雨の日、電車の音を聞きながらトンネルに入ると、中は真っ暗です。ラッパの音がして、サーカスが始まりました。大きな船や空飛ぶウマまで登場し、ゾウが真っ赤な風船をプレゼント。でも、その風船が割れると……トンネルを抜け、雨は上がっていました。

著／中野 真典
1,400円
（イースト・プレス）

『BLUEBIRD ぼくと ことり』

学校になじめず、いつもうつむき加減で、自信のない男の子のところに、ある日、青い鳥がやってきました。青い鳥は、男の子を笑顔にし、いろいろな出会いに導いてくれます。絵がたっぷりと語りかける、文字なし絵本の醍醐味を楽しみましょう。

作／ボブ・スタック
1,600円（あすなろ書房）

『雨ニモマケズ Rain Won't』

アメリカ、ミシガン州生まれの詩人アーサー・ビナードが新しく訳した英詩と、山村浩二の美しい絵が、みごとに調和しています。賢治の思い描いた里山が、言葉の響きとともに、いきいきと時空を超えて語りかけてきます。

文／宮沢 賢治
英訳／アーサー・ビナード
絵／山村 浩二
1,500円（今人舎）

『あめのひの くまちゃん』

夕方、雨が降ってくると、くまちゃんはさっきまで遊んでいた野原が心配になりました。そこで雨の中出かけていくと、いつもとは違う発見をします。雨の日のお散歩は、きれいで、不思議で、においも違うってことを。

作／高橋 和枝
1,300円（アリス館）

『お～い、雲よ』

東日本大震災後の東北の景色や子どもたちの様子を撮り続けてきた著者は、雲がみんなに元気を与えてくれると思いました。どんなときも、どんな状況にあっても、空を見上げると、そこに雲は流れているのです。あたたかい視線が感じられる写真ばかりです。

著／長倉 洋海
1,600円（岩崎書店）

『どこにいるかな？』

小さな生きものにとって自然は危険がいっぱいです。敵から身を守るためには、まわりの色にとけこんで身を隠します。みんなどこにいるのかな？　本の中の生きもの探しが、ステージ３の「かなり難しい編」まで挑戦できます。

著／松橋 利光
1,400円（アリス館）

『くまくまパン』

クマさんと白クマさんがパン屋を始めました。お客におすすめのパンを聞かれたとき、ふたりは自分がつくったパンこそ一番と言いはり、ケンカになりました。お店は閉まったままに。そこへ評判を聞いたカバ王さまがパンを買いに来ました。

作／西村 敏雄
1,300円（あかね書房）

『おおやまさん』

いつも怖い顔のおおやまさんは、ぼくの幼稚園バスの運転手さんです。おおやまさんは、にこにこ笑ったり、べらべらおしゃべりしたりはしません。でもある日、チューリップを見てにっこりするおおやまさんを、ぼくは見てしまったのです。

作・絵／川之上 英子、
川之上 健
1,300円（岩崎書店）

『ぼくのへやのりすくん』

ともくんの部屋の壁にはお母さんが描いてくれた大きな木があります。ある朝、大きな木にいたリスが絵から出てきて「おなかすいたよう」と言いました。ともくんとお母さんは木の実やくだもの、リスくんの友だちを描いて楽しく遊びます。

著／とりごえ まり
1,400円（アリス館）

『こりすのかくれんぼ』

やんちゃでかわいい四つ子の子リスたちは、お母さんに留守番を頼まれます。でもかくれんぼをしながらこっそりついていくことにしました。ふりむくお母さんと、あわててかくれる子リスたちの愛らしさに、思わず笑みがこぼれる写真絵本です。

著／西村 豊
1,200円（あかね書房）